

仕事編成の導入（知恵と汗によるマンパワー事業の創設）

埼玉県

人口：7,019,919 人

面積：3,797.25 km²

取組の概要

政策課題の解決に向け、予算事業のみならず、職員の知恵やノウハウの活用、さらには NPO や民間企業、ボランティアとの連携など、資金以外の様々な資源の活用を図る「仕事編成」という考え方を平成 18 年度当初予算及び組織定数改正から導入した。

また、「仕事編成」の考え方にに基づき、事業予算はゼロでも職員が知恵や汗を出し、つなぎ役となって成果を出す「知恵と汗によるマンパワー事業」を創設した。

取組の紹介

1 取組の背景

- ・ これまで、行政は政策課題解決に向けた取組を考えるに当たって、予算という「資金の流れ」を中心に考えてきた。
- ・ しかし、政策課題の解決手段は予算だけではない。県は、資金以外の様々な資源（県の信用力、職員の知識・経験、情報など）を有している。
- ・ 「予算がないから仕事ができない」ではなく、具体的な成果目標をまず定め、そのための「知恵の出し方」「汗のかき方」は何かを描くことが重要であると考えた。

2 取組の具体的内容

(1) 平成 18 年度緊急取組課題（3 課題）

全庁的に徹底して取り組むことで、この 1～2 年以内に成果を出すべき緊急的な課題として設定し、人員や予算を重点的に配分して、集中的に取り組む。

① 地域における防犯の推進

目標：犯罪発生件数（人口千人当たり） 22.3 件（17 年）→ 20.5 件（21 年）

予算事業：自主防犯パトロールへの支援など

知恵と汗によるマンパワー事業：防犯パトロール広げ隊など

② 圏央道開通を活かした産業集積の推進

目標：豊かな田園空間と調和する産業集積、民間主導による産業集積の促進

市町村との共同による産業集積の促進

予算事業：民間資金を活用した事業化検討など

知恵と汗によるマンパワー事業：基本方針等の策定など

③ 青少年の体験活動徹底

目標：公立高校進路決定者率 90%以上（18 年度末）

公立高校中退率 2.0%以下（20 年度末）

予算事業：生きる力・社会力の育成など

知恵と汗によるマンパワー事業：体験活動の受入先の開拓など

(2) 重要課題（10 課題）

緊急取組課題と同様、「仕事編成」の考え方により具体的な目標達成を目指す課題として、各部局が自ら設定。

例）・外国籍県民への支援

- ・地域の危機管理・防災力の強化
- ・貴重な医療資源、みんなで大切に使おう！
- ・学校・仮定・地域が一体となった子どもの育成 など

(3) その他の課題（「知恵と汗によるマンパワー事業」のみ 93 事業）

予算によらず、「知恵と汗によるマンパワー事業」のみで解決を図る課題として、各部局が自ら設定。

例）・埼玉ストリートミュージシャン支援事業

- ・市民活動サポーターの養成事業
- ・教員OB出前講座派遣事業
- ・ベンチャー製品実験的販売機会提供事業 など

3 取組の効果

(1) 成果目標の設定

部局ごとに具体的な数値目標を掲げ、目標達成につなげることができる。

(2) 地域全体のマンパワーの活用

県の信用力や情報などを活用し、県がつなぎ役となってNPOや民間企業等と連携することにより、地域のマンパワーを最大限に生かすことができる。

(3) 職員の意識改革（取組意欲の向上）

予算がなくても成果を出す仕事のやり方や工夫を職員に促すことができる。

(4) 取組の効果

＜緊急取組課題の例＞

- ・ 地域における防犯の推進

犯罪発生件数（人口千人当たり）：22.3 件（17 年）→ 19.5 件（18 年）

自主防犯活動団体数：2,041 グループ（17 年度末）→ 3,859 グループ（19 年 1 月末）

＜その他の課題（「知恵と汗によるマンパワー事業」のみの例＞

- ・ 埼玉ストリートミュージシャン支援事業

埼玉から新しい音楽文化を発信するため、活動場所の施設管理者、放送事業者等と協働する推進会議を設置。

18年4月から19年1月末までの登録者は115団体に上り、新聞、雑誌、テレビ及びラジオで取り上げられ、活動家へメジャーデビューのチャンスを提供するとともに、全国に埼玉の音楽文化を発信できた。

4 取組中の課題・問題点

- ・ 一部には、事業予算がついていない事務というだけで、職員の創意工夫がわかりづらいマンパワー事業もあった。
→ 19年度の「知恵と汗によるマンパワー事業」の公表に当たっては、民間との連携により、行政にはないノウハウを積極的に導入したり、職員が現場に赴き、自ら県民や企業に事業への参加を促したりするなど、「知恵の出し方」「汗のかき方」がわかりやすい事業に絞って公表することとした。

5 住民の反応・評価

- ・ 財政状況が厳しい中、予算だけに頼らず職員の意欲や創意工夫を活用する新たな取り組みに対し、新聞各紙や県議会の反応は大変好意的であった。
- ・ 今後、県民がどれだけの効果が実感できたかなどの評価が重要と考えている。

6 今後の課題

- ・ 今後、18年度のマンパワー事業の達成状況と19年度を取組を公表する予定である。
- ・ 「知恵と汗によるマンパワー事業」も課題解決のためのひとつの手段であり、予算事業と同じように政策評価や組織定数査定の中で、どう位置づけていくか検討が必要と考える。

7 今後取り組む自治体に向けた助言

- ・ ゼロ予算事業は、既にいくつかの県で取り組まれているが、成果目標の設定や県が民間とのつなぎ役となって事業展開する知恵出し、汗出しがポイントと考えている。

（参考）当該取組内容の関連ホームページ

平成18年度「仕事編成」について

<http://www.pref.saitama.lg.jp/A02/BI00/sigoto/sigototop.html>

担当部署：総合政策部計画調整課